

教育的価値	具体の項目	教育課程
3 そなえる 2 かかわる	東日本大震災の様子と被害の状況について理解する。 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	学校行事 総合的な 学習の時間

<題材>

町内の被災施設を訪問(県栽培漁業協会種市事業所)  
町内の施設でのボランティア活動(種市保育園)

<対象>

6年生 28名

<実践の概要・詳細>

大野小学校は内陸部にあり、被災の現場を目にしている子は少ない。震災について知っていても、自分たちとは遠いところでの出来事と感じている子もいる。

そこで、東日本大震災の被害の様子や現在の実態を調べたり、自分たちに何ができるか考えたりする活動を行った。これは、地域への誇りや愛着を深め、将来にわたり地域の発展や復興に貢献していこうという気持ちをふくらませたり、今後の自分たちの生き方を考えてみる機会としたりすることをねらいとしたものである。

まず、7月の遠足の時に、震災で大きな被害を受けた種市地区の稚ウニの栽培施設を訪問し、施設を見学しながら、震災当時の被害の様子やその後の復興への取り組み、現在の施設の復旧状況を聞いた。

次に、総合的な学習の時間の中で、施設訪問をして学んだことをまとめながら、「自分たちにできることは何か」を考え、被災地にある種市地区の保育園を訪問して、小さな子どもたちが楽しめるような活動することを子どもたちが計画した。

その後、学校職員や図書ボランティアの方からの指導や援助を受けて準備をし、11月に種市保育園を訪問した。わずか1時間ほどの交流であったが、園児を抱きかかえて別れを惜しむ6年生の姿や最後まで手を振って見送ってくれる園児の姿も見られるなど、6年生と園児の心が1つになり、笑顔と歓声が響き、心の絆を結ぶことができた学習となった。



<授業の展開>

7月の稚ウニの栽培施設訪問	11月の保育園訪問
<p>1、施設の方からお話を聞く（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の概要について</li> <li>・震災当日の様子について</li> <li>・資料をもとに震災前と震災後の変化について</li> <li>・復旧するまでの苦労と地域の方たちからの支援について</li> </ul> <p>2、稚ウニ施設の見学（25分）</p> <p>3、感想発表（5分）</p>	<p>1、自己紹介（5分）</p> <p>2、読み聞かせ—紙芝居・絵本（10分）</p> <p>3才児には紙芝居、4・5才児は絵本。</p> <p>3、合奏と歌の発表（5分）</p> <p>合奏の後、園児も歌える歌をいっしょに。</p> <p>4、外での自由遊び（30分）</p> <p>サッカー、鬼ごっこ、遊具・・・など。</p> <p>5、手作りクッキープレゼント（5分）</p> <p>6、子どもたちへのメッセージ（5分）</p>

<7月の遠足での子どもの感想>

大きな被害があってもくじけずあきらめない心に、強く感動しました。これからどんなことがあってもくじけずに生きたいと思いました。

私たちが今できることは、ボランティアをして手伝ったりはげましあったりして、「一人じゃない。みんながいる。！！」ということ伝えることだと思う。

<11月の保育園訪問の子どもの感想>

私たちは7月の遠足で、種市にあるウニの栽培施設に行って、施設の方から津波の被害やその後の苦労についてのお話を聞きました。わたしは、大変な被害のこと、みんなで協力すれば大きな力になることなど感じました。

学校に戻ってから、地域のために自分たちに何ができるかみんなで考えました。そして、種市の保育園に行って子どもたちが楽しめるようなことをしようと決めました。

（途中略）

保育園では「おねぼうのじゃがいもさん」という紙芝居を読みました。私たちが読み聞かせをしたのは3歳ぐらいの子どもたちでしたが、読んでいる間は静かに聞いていて、終わると大きな拍手をしてくれました。帰る時には子どもたちが、

「またね。」

と言ってくれました。その時に、とても温かい気持ちになりました。

私はこの気持ちを大人になるまで忘れてはいけなさと感じました。そして大人になってもいいことができる人になりたいです。

<まとめ>

被災地訪問を通して心が揺さぶられた体験から、「できる事を、役立つ事をしたい！」という6年生の純粋な思いと願いが、多くの方たちの理解と協力があって実現した。

たくさんのうれしさと感激を味わった6年生が、「役に立つ、人を笑顔にする、人から頼りにされる、認められる、心が伝わる」ことなどの喜びを知った学習となった。